

ピックアップ
News

Pickup NEWS

平成25年の簡易生命表

平均寿命、男性がはじめて80年超え、男女とも過去最高に

■ 男・約88%、女・約94%が年金受給65歳まで生存

——年金受給期間の65歳の平均余命は男・約19年、女・約24年■

厚生労働省統計情報部は7月31日、「平成25年 簡易生命表」を公表したが、日本にいる日本人の平均寿命は男80・21年、女86・61年となった。男性ははじめて80年を超え、24年の79・94年を更新し過去最高となり男も人生80年時代となった。女性も21年の86・44年を更新し過去最高。医療技術の進展や健診の広がりなどで死因のリスクが低くなれば寿命の延伸につながるが、厚労省統計情報部では、日本の平均寿命について「まだ延びる余地はある」との認識を示している。生命表上で年金受給の65歳まで生存する者の割合は、25年は男88・0%、女93・9%となり、平均すると男女とも高い割合で65歳まで生きる。この65歳からの平均余命が、平均の年金受給期間とみることができるが、25年の65歳の平均余命は男19・08年、女23・97年となっている。国際比較では、女の平均寿命が世界一、男は第4位で、世界トップクラスの平均寿命となっている。

■ 男80・21年、女86・61年でともに過去最高

25年簡易生命表によると、0歳の平均余命である平均寿命は、男80・21年で前年に比べ0・27年上回り、女は86・61年で同0・20年上回った。男は前年を上回り過去最高、女は21年の86・44年を更新し

過去最高となっている(表1、表2)。

平均寿命は、22年は猛暑、23年は震災の影響で男女とも2年連続で前年を下回っていたが、24年はもどる形で延び、25年も引き続き平均寿命は延びている。統計情報部では、死因別で寿命の延び(男0・

▽平成25年簡易生命表：日本にいる日本人について、25年1年間の死亡状況が今後変化しないと仮定し、各年齢の人が1年以内に死亡する確率や平均してあと何年生きられるかの期待値などを、死亡率や平均余命等の指標(生命関数)で表すもの。0歳の平均余命である「平均寿命」は、保健福祉水準を総合的に示す指標として広く活用されている。なお、5年に一度、国勢調査などに基づく「完全生命表」(直近は平成22年)が公表されている。

27年、女0・20年)への寄与度を調べているが、悪性新生物の寄与度は男0・06年、女0・02年のプラス寄与で、死因として最も多い悪性新生物の死亡状況改善による寄与は男性のほうが高く、この差が前年比での男女差に表れている。このほか、高血圧性を除く心疾患が男0・06年、女0・06年、脳血管疾患が男

表1 主な年齢の平均余命

(単位: 年)

年齢	男			女		
	平成25年	平成24年	前年との差	平成25年	平成24年	前年との差
0歳	80.21	79.94	0.27	86.61	86.41	0.20
5	75.45	75.19	0.26	81.84	81.67	0.17
10	70.49	70.23	0.26	76.87	76.70	0.17
15	65.52	65.26	0.26	71.89	71.72	0.17
20	60.61	60.36	0.25	66.94	66.78	0.16
25	55.77	55.52	0.25	62.01	61.85	0.16
30	50.93	50.69	0.24	57.09	56.94	0.15
35	46.09	45.85	0.24	52.19	52.04	0.15
40	41.29	41.05	0.24	47.32	47.17	0.15
45	36.55	36.32	0.23	42.49	42.35	0.14
50	31.92	31.70	0.22	37.74	37.59	0.15
55	27.44	27.23	0.21	33.07	32.92	0.15
60	23.14	22.93	0.21	28.47	28.33	0.14
65	19.08	18.89	0.19	23.97	23.82	0.15
70	15.28	15.11	0.17	19.59	19.45	0.14
75	11.74	11.57	0.17	15.39	15.27	0.12
80	8.61	8.48	0.13	11.52	11.43	0.09
85	6.12	6.00	0.12	8.19	8.10	0.09
90	4.26	4.16	0.10	5.53	5.47	0.06

表2 平均寿命の年次推移

(単位: 年)

和暦	男	女	男女差
昭和22年	50.06	53.96	3.90
25-27	59.57	62.97	3.40
30	63.60	67.75	4.15
35	65.32	70.19	4.87
40	67.74	72.92	5.18
45	69.31	74.66	5.35
50	71.73	76.89	5.16
55	73.35	78.76	5.41
60	74.78	80.48	5.70
平成2	75.92	81.90	5.98
7	76.38	82.85	6.47
12	77.72	84.60	6.88
17	78.56	85.52	6.96
18	79.00	85.81	6.81
19	79.19	85.99	6.80
20	79.29	86.05	6.76
21	79.59	86.44	6.85
22	79.55	86.30	6.75
23	79.44	85.90	6.46
24	79.94	86.41	6.47
25	80.21	86.61	6.40

注:1)平成17年以前及び平成22年は完全生命表による。

2)昭和45年以前は、沖縄県を除く値である。

表3 生命表上の特定年齢まで生存する者の割合

(単位: %)

和暦	男					女				
	40歳	65歳	75歳	90歳	95歳	40歳	65歳	75歳	90歳	95歳
昭和22年	68.0	39.8	18.5	0.9	0.1	70.9	49.1	29.0	2.0	0.2
25-27	81.8	55.1	29.4	2.0	0.3	83.2	62.8	40.5	4.0	0.6
30	87.0	61.8	34.6	2.7	0.5	89.0	70.6	47.6	6.2	1.3
35	89.7	64.8	36.1	2.3	0.4	92.2	75.2	51.5	6.0	1.2
40	92.6	69.1	39.9	2.3	0.3	95.0	80.0	57.1	6.5	1.2
45	93.7	72.1	43.5	3.5	0.6	96.1	82.6	61.2	8.6	1.9
50	95.1	76.8	51.0	5.4	1.1	96.9	86.1	67.8	12.0	2.9
55	96.1	79.4	55.7	7.1	1.5	97.6	88.5	72.7	16.0	4.2
60	96.7	81.1	60.2	9.4	2.2	98.0	90.1	76.9	21.2	6.4
平成2	97.1	82.6	63.0	11.6	3.0	98.3	91.3	79.8	26.3	9.0
7	97.2	83.3	63.8	12.8	3.4	98.4	91.6	81.2	30.9	11.9
12	97.5	84.7	66.7	17.3	5.7	98.6	92.6	83.7	38.8	17.7
17	97.7	85.7	69.3	19.3	6.5	98.7	93.1	85.1	42.7	20.8
18	97.8	86.1	70.3	20.6	7.3	98.7	93.3	85.5	43.9	21.9
19	97.8	86.4	70.8	21.0	7.6	98.7	93.3	85.8	44.5	22.4
20	97.9	86.6	71.2	21.1	7.5	98.7	93.4	86.0	44.8	22.4
21	97.9	86.7	71.9	22.2	8.2	98.8	93.6	86.5	46.4	23.7
22	97.9	87.0	72.2	21.5	7.3	98.8	93.6	86.5	46.2	22.8
23	97.8	86.9	71.9	21.3	7.2	98.6	93.1	85.9	45.4	22.1
24	98.1	87.8	73.1	22.2	7.5	98.8	93.8	86.9	46.5	22.7
25	98.1	88.0	73.6	23.1	8.1	98.9	93.9	87.1	47.2	23.4

注:1)平成17年以前及び平成22年は完全生命表による。

2)昭和45年以前は、沖縄県を除く値である。

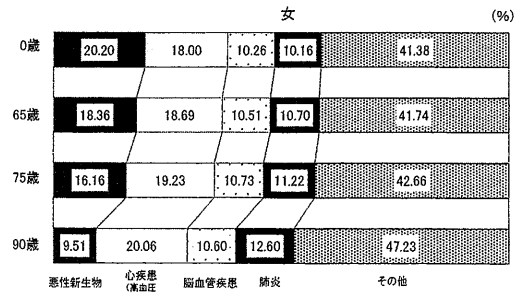
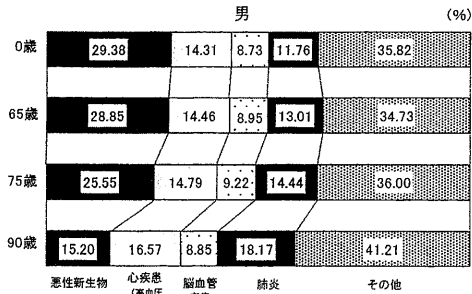
3)生命表作成基礎期間における死亡状況を一定不変とした場合の状況を表しており、現実の生存者の割合とは異なっている。

0・05年、女0・05年、肺炎男0・03年、女0・04年などがプラス寄与で、寿命延伸の方向に働いている。悪性新生物、心疾患、脳血管疾患の3大死因の寄与年数をみると、男は0・17年、女は0・13年寿命を延ばす方向に働いた。各年齢の平均余命をみると、男女とも年齢が高くなるに従って前年との差は小さく

なっているが、25年の平均寿命はすべての年齢で男女とも前年を上回っている。平均寿命の男女差は6・40年で、男の平均寿命が延びて前年より0・07年減少した。

高い割合で65歳まで生存男女それぞれ10万人の出生に対して生命表上の特定年齢まで生存する割合(表3)をみると、65歳まで生存する割合は男88・0%(8万8041人)、女93・9%(9万3933人)で、前年(男87・8%、女93・8%)より伸び、男女とも高い割合で65歳まで生きている。75歳までの生存率は男73・6%、女87・1%で女は平均で9割近くが75歳まで生き、また、80歳までの生存率は男61・0%、女80・0%、90歳までの生存率は男23・1%、女47・

図 死因別死亡確率(主要死因)



2%で女は平均で半分近くが90歳まで生きる。
 全生存年数のうちの65歳以上の生存期間割合をみると、男は20・9%、女は26・0%で、前年(男20・7%、女25・9%)より伸び、男の一生のうちの5分の1、女の一生のうちの4分の1は65歳以上の期間となっている。75歳以上の生存期間の割合は、男10・8%、女15・5%、80歳以上の生存期間は、男6.5%、女10・6%である。また、平均だけで表すのではなく、寿命中位数という統計もとっているが、生命表上で出生者の半数が生存すると期待される年数は、男が83・19年、女が89・40年となり、平均寿命より男は2・98年、女は2・79年上回っている状況。

■ 3大死因除去で男は約7年、女は約6年の延伸
 ある年齢の者の将来の死亡原因を表す死因別死亡確率は、0歳では悪性新生物が男29・38%、女20・20%とそれぞれ最も高い。以下、男は心疾患(14・31%)、肺炎(11・76%)、脳血管疾患(8・73%)の順であり、女は心疾患(18・00%)、脳血管疾患(10・26%)、肺炎(10・16%)と続く(図)。

悪性新生物、心疾患、脳血管疾患という3大死因の死亡確率は、男52・42%、女48・46%で、0歳の将来の死因の半数程度を占める。
 特定死因を除去した場合にどの程度平均余命が延びるかも調べているが、0歳の平均余命への影響は、男女ともに悪性新生物が最も延伸に影響し、これが除去されると男3・79年、女2・91年延びる。悪性新生物が除去された場合の65歳の平均余命への影響は男2・98年、女1・96年で、仮に悪性新生物が除去された場合、65歳の平均余命は男22・06年、女25・93年に延びる。心疾患の0歳への平均余命への影響は男1・45年、女1・43年、脳血管疾患は男0・84年、女0・84年、肺炎は男0・85年、女0・68年である。3大死因を除去した場合、0歳では男7・29年、女6・06年に伸び、65歳では男5・85年、女4・87年、75歳では男4・41年、女4・04年延伸する。